

海のゴミと生き物の被害

新島村立式根島小学校
6年 山田 梨愛

1. 研究の動機

学校行事の海遊びの日、ビーチクリーン(浜清掃)をした。そのとき、カメガレシ袋をえさとまちがえて食べてしまったという話を思い出した。そこで、海のゴミと生き物の被害、そして私たちにできることを言周べたいと思い、研究を進めることにした。

2. 予想

海のゴミは、プラスチック製品が多いだらう。なぜなら、よくプラスチックの物を減らそうということを取り組むからだ。生き物の被害は誤食、誤食が多いだらう。なぜなら、えさとまちがえて食べてしまったらうとよくニュースでやっているからだ。私たちにできることは、浜清掃に参加することだらう。なぜなら誰でも参加できるからだ。

3. 研究の方法

- ① 海に行き、実際にどんなゴミがあったのか言周べる。
- ② インターネットで、生き物の被害にどんなものがあるか言周べる。
- ③ インターネットで、私たちにできることを言周べる。

4. 研究して分かったこと

① 式根島の海にあったゴミ
左の写真は大浦海岸の写真だ。式根島の海岸にはこんなゴミが落ちていた
とくに、あみ・なわ・ペットボトルが「タタ」った。



あみ	なわ	ペットボトル	魚ソーセージの袋	うき	ビン	ビーチサンダル	花火

② 生き物の被害

これは言周べてみると、2種類頁にわけられた。

からまる	言誤飲・言誤食
ゴミの例	ゴミの例
・あみ	・レジ袋
・なわ	・プラスチックシート

誤飲・誤食のゴミは、たいていプラスチックだった。

③ 糸ムたちにできること

海のゴミは実は陸からのゴミが7~8割りとタレい。だから、海のゴミを減らすためにはまず陸でも海でもポイ捨て、不法投棄をなくすと海のゴミが半分減るだろう。

次に大切なのは、プラスチックゴミを減らすことだと思う。なぜなら、生き物の被害を言周べたときに、誤飲・誤食するゴミは、プラスチックが多かったからだ。だから、3Rを行い、マイバッグ、マイボトル、マイ箸を持ち歩くといいだろう。そして、再生プラスチックという物もあるのだから、プラスチックを使うときは、ふつうのプラスチックより再生プラスチックを使うと良いだろう。

最後に私が実祭にプラスチックゴミの削減に繫がっていると、思うカフェと海の売店、体験ダイビングのインストラクターの取り組みがある。

まずカフェの取り組みだ。そこでは土にかえるエコカップと再生紙を使ったストローを使っている。カフェの店員さんは「海のゴミを減らすため、そして環境のためにエコな物に変えた」と言っていた。さらに、「ポイ捨てをもしされたときに土にかえるエコカップの方が環境にいいと思いこれにした。」と言っていた。

最後に海の売店と体験ダイビングのインストラクターの取り組みだ。台風の影響で飛んで来たゴミを捨てた。なぜゴミを捨てたのか体験ダイビングのインストラクターの人にきくと、「自分たち働いている場所だから、きれいにしたかった。」と言っていた。

5. 研究のまとめ

私はこの研究からどれだけきれいにしたつもりでも、まだたくさんゴミが落ちていることが分かった。そして、生き物の被害には2種類頁の被害があった。そして、海のゴミを減らすためにはすぐに私たちにできることがたくさんあった。この海のゴミの問題はSDGsにもなっているのだから、多くの人に取組んでほしい。

6. 参考文献

<https://www.ecodane.jp> 「プラスチック・トリイアル」・取材協力 NINZ COFFEE
<https://oshihaku.jp> 「おしごと年金監」・<http://www.jean.jp> 「一般社団法人JEAN」